

電気ケトル

保証書

持込修理

品番	AT-EK11				
保証期間	本体	お買い上げ年月日	年	月	日より1年間
お客様	お名前	様 ☎ () -			
	ご住所	〒			
販売店	店名	☎ () -			
	住所	〒			

本書は、本書記載内容で無料修理をおこなうことをお約束するものです。
上記「保証期間」中に故障が発生した場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

●所定記入欄が空欄のままですと、本書は有効とはなりません。記入のない場合は直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。

●本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

<無料修理規定>

- 取扱説明書、本体添付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合は、無料修理いたします。
- ご転居、ご贈答品などで修理依頼ができない場合には、下記に記載の連絡先までご相談ください。
- 保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。
 - (イ) 使用上の誤りや不当な修理、改造による故障及び損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の転倒、使用場所の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (ハ) 火災、地震、風水害、ガス害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧その他の外部要因による故障及び損傷。
 - (ニ) 一般家庭用以外（業務用、車両、船舶への搭載）に使用された場合の故障及び損傷。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書きかえられた場合。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書控）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますのでご了承ください。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間については取扱説明書をご覧ください。

本書に記載の内容と異なる使いかたや目的で使用されますと、保証の対象外となります。
また、生じた損害についても弊社は一切責任を負いません。

この製品についてのお取り扱いお手入れ方法などのご相談、ご転居されたりご贈答品などで、販売店に修理のご相談ができない場合は、右記までご相談ください。

「山善 家電お客様サービス係」

ナビダイヤル ☎ 0570-077-078

※PHS、IP電話など一部の電話からのご利用はできません。
受付時間：10:00～17:00（土・日・祝日を除く）

●FAXまたはEメールでのご相談も受け付けております。その際は商品名・品番・ご相談内容・お名前・お電話番号をご記入のうえ、ご相談ください。

●FAXでの フリーダイヤル 0120-680-287
ご相談は ☎

●Eメールでの フリーダイヤル info_m@yamazen.co.jp
ご相談は

株式会社 **山善** 家庭機器事業部

〒550-8660 大阪市西区立売堀3丁目2番5号

TAG label by *amadana*

manual

取扱説明書

electric kettle

電気ケトル

AT-EK11



このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品をお使いになる前に必ず本書をお読みいただき、正しくお使いください。本書は読み終わったあと、大切に保管してください。

本製品は日本国内においてのみ使用可能です。This product can be used only in Japan.
amadana は amadana 株式会社の登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

index

- 安全上の注意.....②～④
- 各部の名称とはたらき.....⑤～⑥
- 使いかた.....⑦～⑬
- 電源プラグをコンセントに差し込む.....⑦
- ケトルに水を入れる.....⑧
- ふたを取りつける.....⑨
- ケトルをセットする.....⑨
- 起動モードにする.....⑩
- お湯を沸かす
 - 沸とう.....⑪
 - 温度を選択して加熱.....⑫
 - 好みの温度で加熱.....⑬
 - 保温.....⑭
- 空だき防止機能について.....⑮
- メモリー機能について.....⑮
- お湯を注ぐ.....⑯
- 使用後は電源プラグをコンセントから抜く.....⑯
- お手入れと保管.....⑰～⑱
- 故障かな?と思ったら.....⑲～⑳
- エラー表示について.....㉑
- 点検のお願い.....㉑
- 仕様.....㉑
- アフターサービスについて.....㉑
- 保証書.....裏表紙


安全上のご注意


ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、必ずお守りください。
 ※ここに示した項目は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。また、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、軽傷や物的損害の発生が想定される内容を示しています。










絵表示の例

 ①記号は禁止「してはいけないこと」を表示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

 ②記号は強制「しなければいけないこと」を表示しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

※お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

- | | |
|--|--|
| <p> 交流100V定格15A以上のコンセントを単独で使用する
 指示に従う</p> <ul style="list-style-type: none"> ●交流100V以外での使用、タコ足配線などでコンセントの定格を超える使いかたをすると、異常発熱・発火・火災の原因になります。 ●延長コードも定格15A以上のものを単独で使用し、複数の機器を接続するなど定格を超える使いかたをすると、異常発熱・発火・火災の原因になります。 | <p> 傷んだ電源コードや電源プラグは使用しない
 禁止</p> <p>コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感電・ショート・火災の原因になります。
 ※電源コードが破損した場合、コードの交換は危険を防止するために、製造業者若しくはその代理店または同等の有資格者によっておこなってください。 |
| <p> 電源コードを傷つけたり、破損させたり加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりたばねて使用しない
 禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感電・火災の原因になります。
 ※結束バンドは必ずはずしてください。 | <p> 電源コードの上に重いもの・電源プレート・ケトルをのせたり、挟み込んだりしない
 禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電源コードが破損し、感電・ショート・火災の原因になります。 |
| <p> 異常、故障、破損があったり、電源プラグや電源コードが異常に熱くなる
 指示に従う</p> <p>ときは、直ちに使用を中止する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災・感電・けがの原因になります。
 異常・故障例
 ㉑ページの「点検のお願い」こんな症状はありませんか?」を参照し、異常がある場合は直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店に点検、修理をご相談ください。 | <p> 電源プラグは、根元まで確実に差し込む
 指示に従う</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感電・発熱・火災の原因になります。 |
| <p> お子さまや取り扱いに不慣れな方だけで使用しない
 禁止</p> <p>乳幼児の手の届く場所で使用したり保管しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●やけど・感電・けがの原因になります。 | <p> ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
 ぬれ手禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ●感電・ショート・けがの原因になります。 |
| <p> 分解、修理、改造をしない
 分解禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災・感電・けがの原因になります。
 ※修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。 | <p> 包装用ポリ袋は、お子さまの手の届かない場所に保管する
 指示に従う</p> <ul style="list-style-type: none"> ●誤って顔にかぶったり、巻きついたりして窒息する原因になります。 |

警告

 <p>お手入れのときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、冷めてからおこなう</p> <p>プラグを抜く ●感電・ショート・やけどの原因になります。</p>	 <p>他の電気製品・電源プラグ・コンセントに蒸気をあてない</p> <p>●電気製品の故障や感電・ショート・火災の原因になります。</p> <p>禁止</p>
 <p>電源プラグをコンセントに差し込んでいるときは、電源コードを引っかかないよう注意する</p> <p>指示に従う ●ケトルや電源プレートが落下したり、お湯がこぼれて、やけど・けが・破損の原因になります。</p>	 <p>定期的に電源プラグのほこりをふき取る</p> <p>指示に従う ●電源プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、感電・ショート・火災の原因になります。 ※電源プラグのほこりは、乾いた布でふき取ってください。</p>
 <p>ケトル接続部や電源プレート接続部にピンなどの金属やごみを入れたり付着させない</p> <p>禁止 ●感電・ショート・発火の原因になります。</p>	 <p>直火（ガス台など）・電気ヒーター・IH調理器・IH加熱器・電子レンジなどで使用しない</p> <p>禁止 ●火災・故障の原因になります。</p>
 <p>ケトル接続部や電源プレート接続部をなめさせない</p> <p>禁止 ●感電・ショート・けがの原因になります。 ※乳幼児やペットが誤ってなめないように注意してください。</p>	 <p>不安定な場所、熱に弱い敷物（テーブルクロスなど）の上、燃えやすいもの（カーテン・新聞など）の近くで使用しない</p> <p>禁止 ●けが・やけど・火災の原因になります。</p>
 <p>流し台など水がかかりやすい場所やぬれた場所に置かない</p> <p>水ぬれ禁止 ●感電・ショート・故障の原因になります。</p>	 <p>加熱中や加熱後のケトルを熱に弱い敷物（テーブルクロスなど）の上に置かない</p> <p>禁止 ●溶けたり、変色・変形の原因になります。</p>
 <p>ケトルをゆすったり、転倒させない</p> <p>禁止 ●お湯がこぼれて、やけどの原因になります。</p>	 <p>MAX目盛り以上水を入れない</p> <p>禁止 ●お湯がふきこぼれて、やけどの原因になります。</p>
 <p>ケトルや電源プレートを水に入れたり水をかけたり、丸洗いをしない</p> <p>水ぬれ禁止 ●故障・感電・ショート・火災の原因になります。 ※接続部は絶対にぬらさないでください。 ※ふたは丸洗いできます。</p>	 <p>空だけはしない</p> <p>禁止 ●火災・やけど・故障の原因になります。 ※水がない状態で加熱しないでください。</p>
 <p>付属の電源プレート以外は使用しない 付属の電源プレートを他製品に使用したり、他製品の電源プレートを本製品に使用しない</p> <p>禁止 ●発火・故障の原因になります。</p>	 <p>水以外のものを入れたり、加熱しない</p> <p>禁止 ●お茶の葉・ティーバッグ・牛乳・酒・スープ ●インスタント食品の調理・レトルト食品のあたため などで使用すると、ふきこぼれてやけどをしたり、焦げつき・腐食・故障の原因になります。 ※本製品は湯沸かし専用です。</p>
 <p>注ぎ口をふきんなどでふさがない</p> <p>禁止 ●お湯がふきこぼれて、やけどの原因になります。</p>	 <p>氷を入れて使用しない</p> <p>禁止 ●結露が生じて、感電・ショート・故障の原因になります。</p>
 <p>加熱中、加熱後しばらくの間、保温中はケトルの金属部・蒸気口・注ぎ口に触ったり、手や顔を近づけない</p> <p>禁止 ●やけどの原因になります。</p>	 <p>電源プレートにケトルをのせたまま持ち運ばない</p> <p>禁止 ●お湯がこぼれて、やけどの原因になります。</p>

警告

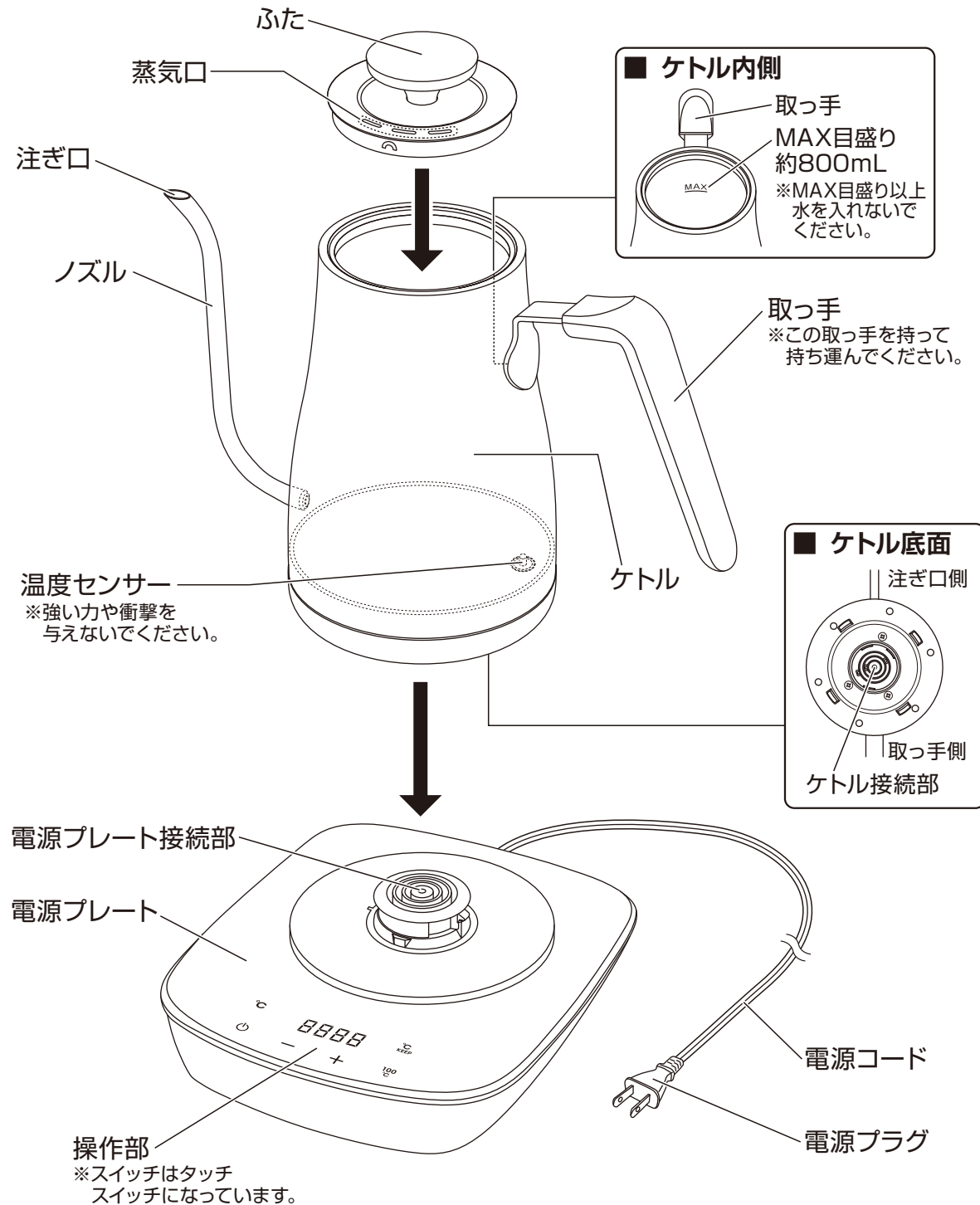
 <p>ふたは確実に取りつける</p> <p>指示に従う ●加熱中に蒸気が漏れたり、注ぐときにお湯がこぼれて、やけどの原因になります。</p>	 <p>ふたをはずして加熱や保温をしない</p> <p>禁止 ●加熱が正常にできなかつたり、お湯のふきこぼれ、飛び散り、蒸気に触れてやけどの原因になります。</p>
 <p>ふたを持ってケトルを持ち運ばない</p> <p>禁止 ●蒸気や高温部に触れたり、お湯がこぼれてやけどの原因になります。 ※持ち運ぶときは必ず取っ手を持ってください。</p>	 <p>加熱中や保温中にふたをはずして足し水をしない</p> <p>禁止 ●お湯が飛び散ったり、蒸気に触れてやけどの原因になります。</p>

注意

 <p>電源コードを持って電源プレートを引っ張ったり、引きずらない</p> <p>禁止 ●破損・故障・発火の原因になります。</p>	 <p>電源コードを引っ張って電源プラグを抜かない</p> <p>禁止 ●感電・ショート・発火の原因になります。 ※必ず電源プラグを持って引き抜いてください。</p>
 <p>使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く</p> <p>プラグを抜く ●絶縁劣化による、感電・漏電・火災の原因になります。</p>	 <p>食器洗い乾燥機などで洗ったり乾燥しない</p> <p>禁止 ●やけど・変形・破損の原因になります。</p>
 <p>持ち運ぶときやお手入れをするときは注ぎ口に注意する</p> <p>指示に従う ●先端が尖っています。 けがをしないように注意してください。</p>	 <p>ふたを開けるときは、蒸気に注意する</p> <p>指示に従う ●やけどの原因になります。</p>
 <p>ケトル・ふた・電源プレートに強い衝撃を与えない</p> <p>禁止 ●破損・故障・感電の原因になります。</p>	 <p>壁や家具などから離して使用する</p> <p>指示に従う ●蒸気または熱により壁や家具を傷め変色・変形の原因になります。 ※壁や家具などに蒸気があたらないように注意してください。</p>
 <p>本製品は一般家庭用です 絶対に業務用に使用しない</p> <p>禁止 ●本製品に無理な負担がかかり、破損・故障・火災の原因になります。</p>	 <p>本製品は屋内専用です 絶対に屋外で使用しない</p> <p>禁止 ●屋内での使用に基づき設計されています。 屋外で使用すると、故障・漏電・発火・火災の原因になります。</p>
 <p>掃除用・整髪用・殺虫剤などのスプレーを吹きつけない</p> <p>禁止 ●破損・故障・けがの原因になります。</p>	 <p>次のような場所では使用しない</p> <p>禁止 ●加熱が正常にできなかつたり、故障・感電・ショート・火災の原因になります。 ●火気（コンロやストーブ）など熱源の近くや直射日光のあたる所。 ●湿気の多い所。 ●厨房や工場などの油や油煙が発生する所。 ●ほこりや金属粉の多い所。</p>
 <p>お手入れにはシンナー・ベンジン・みがき粉・たわし・化学ぞうきんなどは使用しない</p> <p>禁止 ●破損・故障・けがの原因になります。 ※お手入れは⑰～⑲ページの「お手入れと保管」を参照してください。</p>	

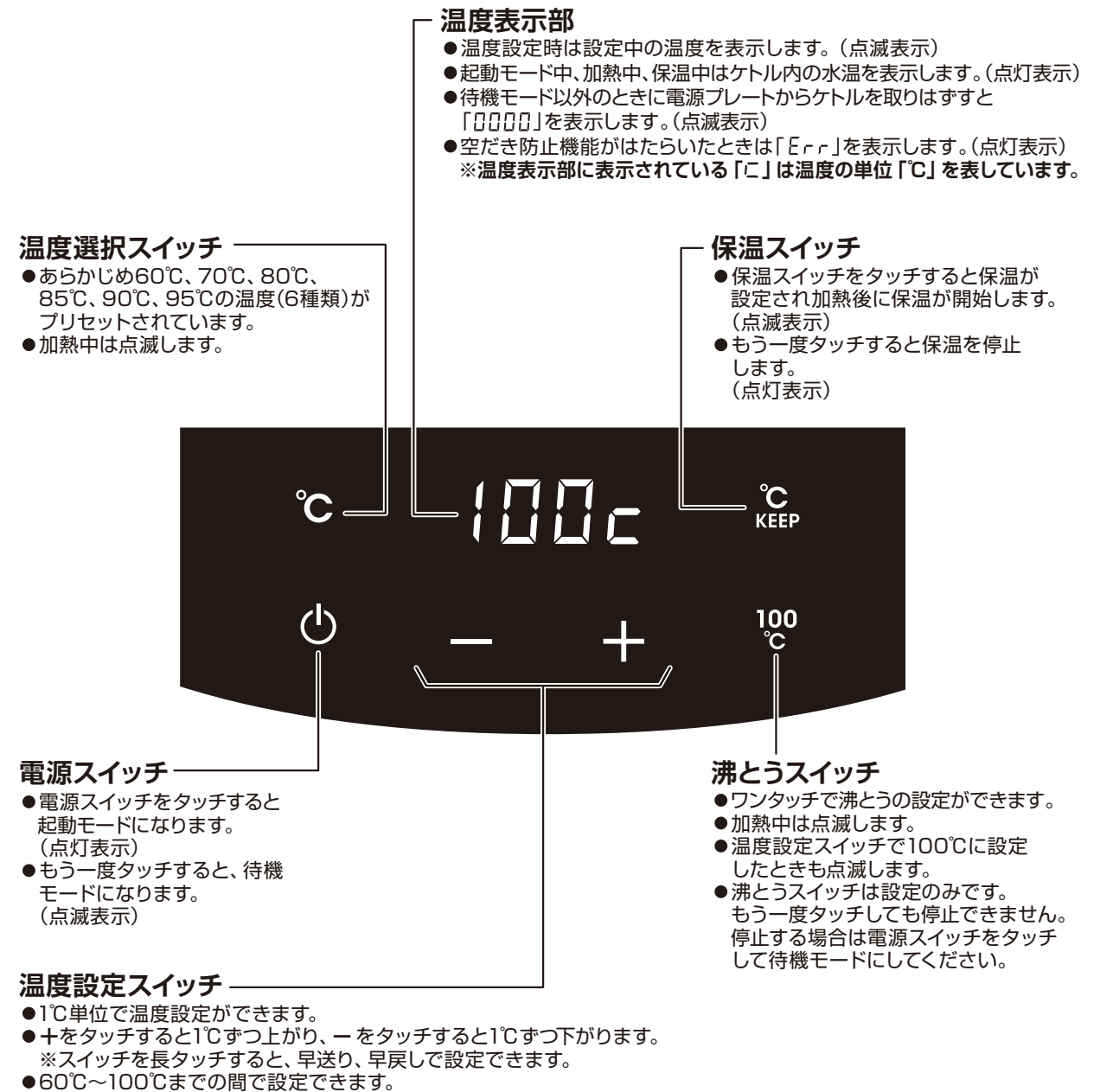
各部の名称とはたらき

■ ケトル・電源プレート



各部の名称とはたらき

■ 操作部



使いかた

知っておいていただきたいこと

- 温度表示部の水温と実際の水温のばらつきについて
本製品の测温方式上のばらつきやご使用環境条件により、温度表示部に表示される水温と実際の水温に誤差が生じる場合があります。
- 97℃～100℃で温度設定した場合の保温について
保温を設定すると、沸とうスイッチ、温度選択スイッチ、温度設定スイッチのいずれかで設定した温度で加熱後に保温されますが、97℃～100℃で温度設定した場合は、96℃前後で保温します。

特に気をつけていただきたいこと

※本製品は、ポットと異なり加熱中や保温中はケトルが熱くなります。
加熱中や保温中は取っ手以外に触らないでください。
やけどの原因になります。

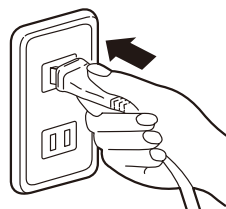
お知らせ

- 本製品は、温度調節をしながら加熱します。
温度を調節しているとき、断続的に「カチッ」と音がしますが、故障ではありません。

はじめて使用するときは、⑰～⑱ページの「お手入れと保管」を参照して一度ケトルを洗ってください。

1. 電源コードの結束バンドを必ずはずし、電源プラグをコンセントに差し込む

- 電源プラグをコンセントに根元まで確実に差し込みます。
- 電源プラグを差し込むと各スイッチと温度表示部が点灯します。
その後「ピッ」と1回音が鳴り、待機モードになります。
※待機モード中は各スイッチと温度表示部が消灯し、電源スイッチのみ点滅します。

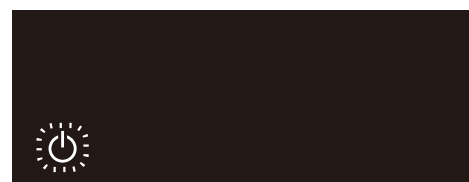


■ 電源プラグを差し込む



上図のように全てのスイッチと温度表示部が点灯します。

■ 待機モード



電源スイッチが点滅します。

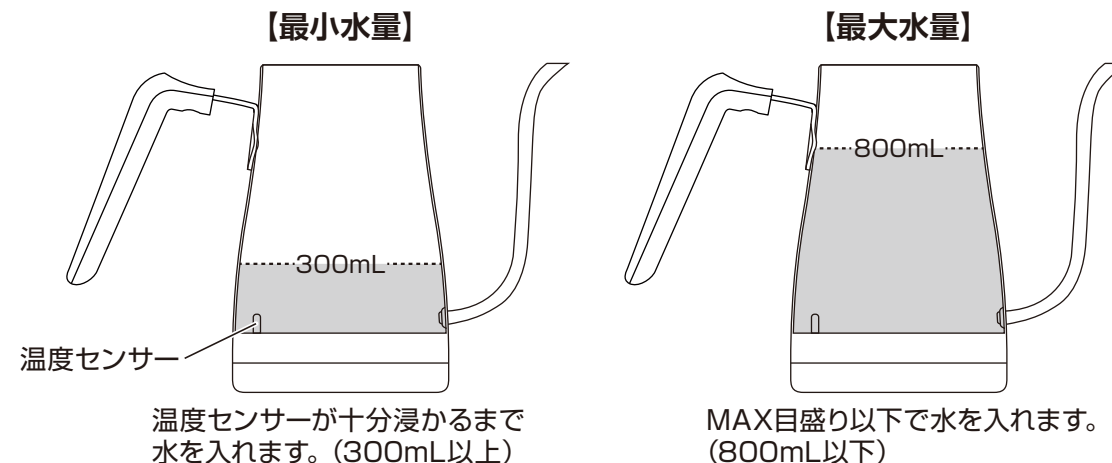
ご使用上の注意

- ※電源コードをたばねたまま使用しないでください。
- ※電源プレートは平らな安定したところに置いてください。

使いかた

2. ケトルに水を入れる

- ふたを取りはずし、ケトルに水を入れます。
- 水量は300mL以上、800mL以下で入れます。



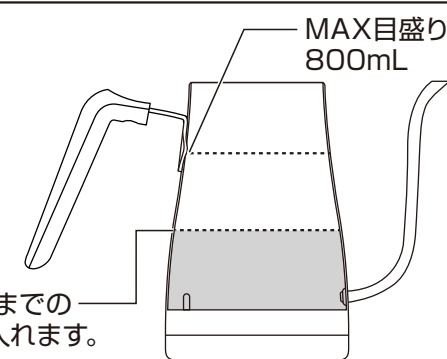
温度センサーが十分浸かるまで水を入れます。(300mL以上)

MAX目盛り以下で水を入れます。(800mL以下)

お知らせ

- 水量が少ない状態で加熱すると、加熱完了後にヒーターの余熱で設定した温度よりも水温表示があがる場合があります。
1℃単位で温度を設定したいときは、右図のように半分以上水を入れることをおすすめします。

ケトル底部からMAX目盛りまでの半分以上になるように水を入れます。



警告

- MAX目盛り以上水を入れない
●お湯がふきこぼれて、やけどの原因になります。
- 水以外のものを入れたり、加熱しない
●お茶の葉・ティーバッグ・牛乳・酒・スープ
●インスタント食品の調理・レトルト食品のあたためなどで使用すると、ふきこぼれてやけどをしたり、焦げつき・腐食・故障の原因になります。
※本製品は湯沸かし専用です。

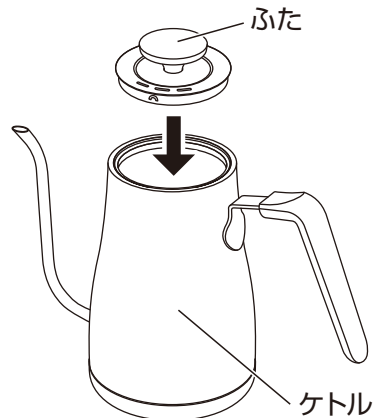
ご使用上の注意

- ※電源プレートにケトルをセットしたまま、水を入れないでください。
誤って水がこぼれたとき、ケトルや電源プレートの接続部がぬれて、感電・ショート・発火の原因になります。

使いかた

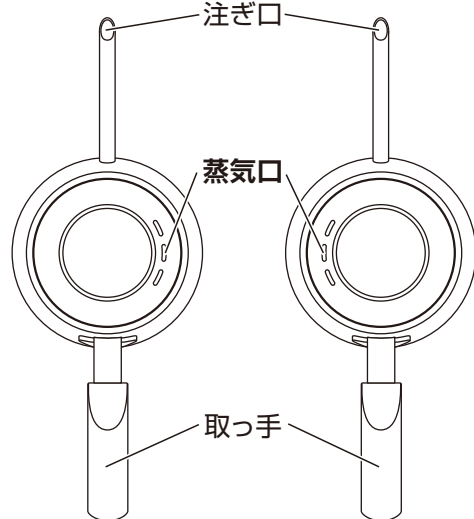
3. ふたを取りつける

- 下図と右図を参照し、蒸気口の向きに注意して確実に取りつきます。



■ ケトルを真上から見た図

蒸気口を右にした場合 蒸気口を左にした場合



※取っ手や注ぎ口に対して90度の位置に蒸気口を向けてふたを取りつけてください。(上図のようにどちらかの方向に向けてください)

警告

- ふたは確実に取りつける
- 加熱中に蒸気が漏れたり、注ぐときにお湯がこぼれて、やけどの原因になります。

4. ケトルをセットする

- 電源プレートにケトルを確実にセットします。セットする前に、接続部がぬれていたり異物が付着していないか確認します。



警告

- ケトル接続部や電源プレート接続部にピンなどの金属やごみを入れたり、付着させない
- 感電・ショート・発火の原因になります。
- 付属の電源プレート以外は使用しない
- 付属の電源プレートを他製品に使用したり、他製品の電源プレートを本製品に使用しない
- 発火・故障の原因になります。

使いかた

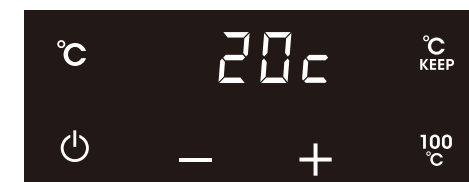
5. 起動モードにする

- 電源スイッチをタッチして起動モードにします。待機モード時に電源スイッチをタッチすると「ピッ」と1回音が鳴り、各スイッチと温度表示部が点灯して、起動モードになります。起動モードになると、温度表示部にケトル内の水温を表示します。

■ 待機モード



■ 起動モード



上図のように全てのスイッチが点灯し、温度表示部にケトル内の水温を表示します。
※上図は水温が20℃の場合

お知らせ

- 起動モード中に電源プレートからケトルを取りはずすと、「ピッ」と1回音が鳴り温度表示部が「0000」で点滅します。電源プレートにケトルをセットすると、元の状態に戻ります。
- 無操作状態が続くとオートオフ機能がはたらきます。オートオフ機能については下記を参照してください。

タッチスイッチについて

- 本製品の各スイッチはタッチスイッチになっています。タッチするときは、各スイッチの文字やマークを指の腹でしっかりタッチしてください。
- 下記の場合うまく反応しない場合があります。
 - 指先やツメでタッチ
 - 手袋やばんそうこうをしてタッチ
 - 操作部に汚れや水滴が付着した状態でタッチ

オートオフ機能について

- 本製品はオートオフ機能がついています。無操作状態が下記の時間経過すると、自動的に待機モードになります。
 - 起動モード時・・・無操作で5分経過した場合
 - 加熱後(保温設定無し)・・・加熱後、無操作で5分経過した場合
 - 保温時・・・保温開始から無操作で1時間経過した場合(保温を停止して待機モードになります)
 - ケトルを取りはずした場合・・・電源プレートからケトルを取りはずした状態で、5分経過した場合(保温時は除く)

使いかた

6. お湯を沸かす

本製品は、加熱のみの設定や、加熱後に保温をおこなう設定ができます。

■ 加熱のみをおこなう場合

沸とう

沸とうスイッチをタッチ
ワンタッチで沸とうを
設定できます。

温度選択

温度選択スイッチをタッチ
あらかじめ6種類の温度が
プリセットされています。

温度設定

温度設定スイッチをタッチ
1℃単位で温度が
設定できます。

■ 保温をおこなう場合

沸とう+保温

温度選択+保温

温度設定+保温

保温スイッチをタッチ 加熱後に保温をおこないます。

沸とう 沸とうスイッチ (ワンタッチで沸とうを設定)

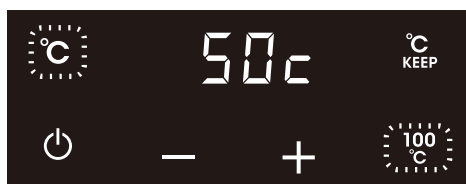
- 起動モード中に沸とうスイッチをタッチします。
沸とうスイッチをタッチすると「ピッ」と1回音が鳴り、沸とうスイッチが点滅して温度表示部に「100℃」を表示して点滅します。
- 「100℃」が5回点滅したあと「ピッ」と1回音が鳴り、設定が完了します。
設定が完了すると、ケトル内の水温を表示し、加熱を開始します。

■ 沸とうスイッチで設定中



沸とうスイッチをタッチすると
沸とうスイッチと「100℃」が
点滅します。

■ 沸とう設定後、加熱中



加熱されて水温が上がると水温表示も
上がります。

※加熱中は沸とうスイッチと温度選択
スイッチが点滅します。

- 加熱中は水温表示が徐々に上がり、「100℃」に
なると「ピッ」と1回音が鳴り、沸とうが完了します。 ※上図は水温が50℃の場合

お知らせ

- 加熱中でも、設定温度の変更や保温の設定が可能です。
- 加熱中に電源プレートからケトルを取りはずすと「ピッ」と1回音が鳴り、温度表示部が「0000」で点滅し、加熱を停止します。
電源プレートにケトルをセットすると、起動モードになります。(再加熱しません)
- 沸とうが完了したあとや、ケトルの取りはずしや、ケトルの再セットをしたあと無操作状態が続くと、オートオフ機能がはたらきます。
※オートオフ機能については、⑩ページの「オートオフ機能について」を参照してください。

沸とう時間について

- 沸とう時間の目安: 約4分30秒 (室温25℃、水温25℃、水量800mLの場合)
 - 沸とうするまでの時間は、条件 (室温・水温・水量) によって異なります。

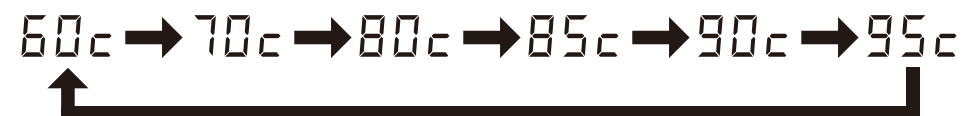
使いかた

6. お湯を沸かす つづき

温度を選択して加熱 温度選択スイッチ (温度を選択して設定)

- 起動モード中に温度選択スイッチをタッチします。
温度選択スイッチをタッチすると「ピッ」と1回音が鳴り、温度表示部に「50℃」を表示して点滅します。
- あらかじめ6種類の温度がプリセットされており、タッチするたびに「ピッ」と1回音が鳴り、下図のように順送りでかわります。

■ プリセットされている温度



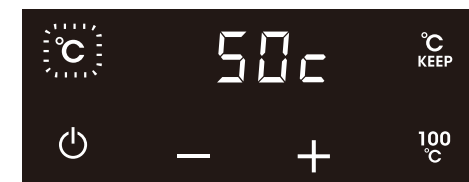
- 温度選択スイッチをタッチしてお好みの温度を点滅させ、5回点滅したあと「ピッ」と1回音が鳴り、設定が完了します。
設定が完了すると、ケトル内の水温を表示し、加熱を開始します。

■ 温度選択スイッチで設定中



温度選択スイッチをタッチすると
設定中の温度が点滅します。
※上図は80℃に設定する場合

■ 温度選択後、加熱中



加熱されて水温が上がると水温表示も
上がります。
※加熱中は温度選択スイッチが点滅します。
※上図は水温が50℃の場合

- 加熱中は水温表示が徐々に上がり、設定した温度になると「ピッ」と1回音が鳴り、加熱が完了します。

お知らせ

- メモリー機能がはたらいているときに、温度選択スイッチをタッチすると前回使用時の設定温度が表示されます。(前回の設定温度で加熱することができます)
※メモリー機能については、⑮ページの「メモリー機能について」を参照してください。
- 加熱中でも、設定温度の変更や保温の設定が可能です。
- 加熱中に電源プレートからケトルを取りはずすと「ピッ」と1回音が鳴り、温度表示部が「0000」で点滅し、加熱を停止します。
電源プレートにケトルをセットすると、起動モードになります。(再加熱しません)
- 加熱が完了したあとや、ケトルの取りはずしや、ケトルの再セットをしたあと無操作状態が続くと、オートオフ機能がはたらきます。
※オートオフ機能については、⑩ページの「オートオフ機能について」を参照してください。

使いかた

6.お湯を沸かす つづき

好みの温度で加熱 温度設定スイッチ (1°C単位で温度を設定)

- 起動モード中に+、または-スイッチをタッチします。
+、または-スイッチをタッチすると「ピッ」と1回音が鳴り、温度表示部に「60c」を表示して点滅します。
- 温度は60°C~100°Cまでの間で1°C単位で設定することができ、タッチするたびに「ピッ」と1回音が鳴り、下図のように順送りでかわります。



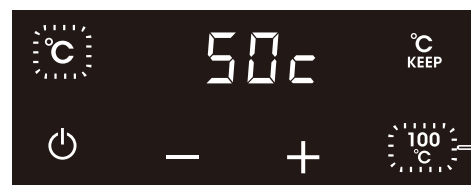
- 温度設定スイッチをタッチして好みの温度を点滅させ、5回点滅したあと「ピッ」と1回音が鳴り、設定が完了します。
設定が完了すると、ケトル内の水温を表示し、加熱を開始します。

■ 温度設定スイッチで設定中



温度設定スイッチをタッチすると設定中の温度が点滅します。
※上図は88°Cに設定する場合

■ 温度設定後、加熱中



加熱されて水温が上がると水温表示も上がります。
※加熱中は温度選択スイッチが点滅します。
※上図は水温が50°Cの場合

100°Cで設定した場合のみ、沸とうスイッチも点滅します。

- 加熱中は水温表示が徐々に上がり、設定した温度になると「ピッ」と1回音が鳴り加熱が完了します。

お知らせ

- メモリー機能がはたらいっているときに、温度設定スイッチをタッチすると前回使用時の設定温度が表示されます。(前回の設定温度で加熱することができます)
※メモリー機能については、⑮ページの「メモリー機能について」を参照してください。
- 加熱中でも、設定温度の変更や保温の設定が可能です。
- 加熱中に電源プレートからケトルを取りはずすと「ピッ」と1回音が鳴り、温度表示部が「□□□□」で点滅し、加熱を停止します。
電源プレートにケトルをセットすると、起動モードになります。(再加熱しません)
- 加熱が完了したあとや、ケトルの取りはずしや、ケトルの再セットをしたあと無操作状態が続くと、オートオフ機能がはたらきます。
※オートオフ機能については、⑩ページの「オートオフ機能について」を参照してください。

使いかた

6.お湯を沸かす つづき

「ピー」と長音が鳴り、温度設定ができないとき

- 沸とうスイッチ、温度選択スイッチ、温度設定スイッチで温度を設定するとき、水温表示よりも低い温度に設定したり、水温表示と設定したい温度に5°C以上差がない場合は設定することができません。
そのような場合は冷めてから設定してください。

保温 保温スイッチ (設定した温度で保温)

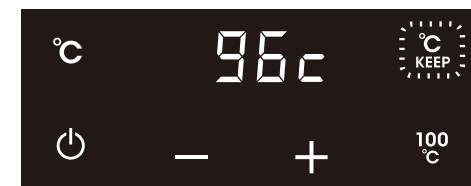
- 沸とうスイッチ、温度選択スイッチ、温度設定スイッチのいずれかで温度を設定後、または加熱中や加熱後に保温スイッチをタッチします。
保温スイッチをタッチすると「ピッ」と1回音が鳴り、保温スイッチが点滅して設定が完了します。
- 沸とうスイッチ、温度選択スイッチ、温度設定スイッチのいずれかで設定した温度で加熱後に保温されます。
※97°C~100°Cで温度設定した場合は、96°C前後で保温します。
- 設定温度に対して保温温度に多少の誤差が生じる場合があります。

■ 設定例：沸とう+保温



各スイッチで温度を設定後、または加熱中や加熱後に保温スイッチをタッチすると保温スイッチが点滅します。
※上図は沸とうで設定した場合

■ 保温中



保温スイッチが点滅し設定した温度で保温します。
※上図は100°C保温設定のため96°C前後で保温。
※設定温度に対して保温温度に多少の誤差が生じる場合があります。

- 保温を設定したあとに保温スイッチをタッチすると「ピッ」と1回音が鳴り、保温スイッチが点灯し保温が停止します。

お知らせ

- 保温の設定は、沸とうスイッチ、温度選択スイッチ、温度設定スイッチのいずれかで温度を設定後、または加熱中や加熱後に設定できます。
※加熱後に保温を設定する場合は、オートオフ機能がはたらく前に設定してください。
- 加熱中でも、設定温度の変更や保温の停止が可能です。
- 保温中に電源プレートからケトルを取りはずすと「ピッ」と1回音が鳴り、温度表示部が「□□□□」で点滅し、保温を停止します。
電源プレートにケトルをセットすると、保温を再開します。
- 保温は1時間です。
保温開始から無操作で1時間経過すると、自動的に保温を停止し待機モードになります。ただし、途中で温度設定を変更した場合は、設定を変更した時点からさらに1時間の保温をおこないます。

使いかた

空だき防止機能について (エラー表示)

- ケトルに水が入っていない状態で加熱すると、空だき防止機能がはたらいいて「ピー、ピー、ピー」と3回音が鳴り、温度表示部に「Err」を表示します。

Err

空だき防止機能がはたらいいてエラーが表示された状態

※「Err」が表示されたときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

(電源プラグを抜かないとエラー表示を解除できません)

- ⑧ページの「ケトルに水を入れる」を参照して、必ずケトルに水を入れてから加熱してください。

メモリー機能について

- 本製品にはメモリー機能がついています。前回使用時の設定温度をメモリーし、次に温度を設定するとき同じ温度で加熱することができます。

※設定温度を変更した場合は、変更した温度をメモリーします。

※メモリー機能は電源プラグを抜くなど、電源が供給されなくなるとリセットされます。

メモリー機能のはたらきかた例

- 温度選択スイッチで80℃を設定した場合

1回目 2回目
80℃ → 加熱 → 80℃
で設定 を表示

1回目に設定した温度をメモリーしています。
2回目に温度を設定するとき、1回目に設定した温度を最初に表示します。

- 温度設定スイッチで88℃を設定した場合

1回目 2回目
88℃ → 加熱 → 88℃
で設定 を表示

1回目に設定した温度をメモリーしています。
2回目に温度を設定するとき、1回目に設定した温度を最初に表示します。

お知らせ

- 温度設定スイッチで設定した温度がメモリーされている状態で、温度選択スイッチを二度タッチするとプリセットされている温度に繰り上げて表示されます。

88℃ → 88℃ → 90℃
をメモリー 温度選択スイッチをタッチ 温度選択スイッチをタッチ

※温度選択スイッチや温度設定スイッチで設定した温度をメモリーしていても沸とうスイッチをタッチすると「100℃」を表示します。
(沸とうを設定すると、沸とうがメモリーされます)

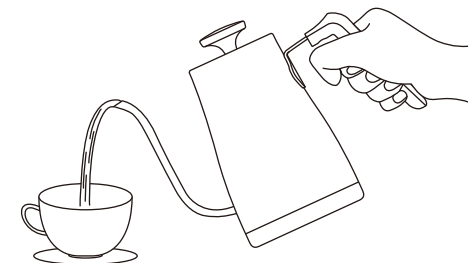
使いかた

7. お湯を注ぐ

- 取っ手を持ってゆっくりと傾けて注ぎます。

警告

- 加熱中、加熱後しばらくの間、保温中はケトルの金属部・蒸気口・注ぎ口に触ったり、手や顔を近づけない
禁止 ●やけどの原因になります。



ご使用上の注意

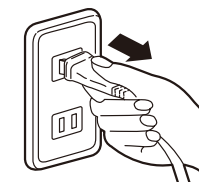
※勢いよく傾けると、蒸気口からお湯がこぼれてやけどの原因になります。

8. 使用後は電源プラグをコンセントから抜く

- 電源スイッチをタッチして、待機モードにしてから電源プラグを抜きます。

注意

- 使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く
●絶縁劣化による、感電・漏電・火災の原因になります。



ご使用上の注意

※ケトルに残っているお湯は必ず捨ててください。




長時間放置しておくと、水アカの付着やおい原因になります。



※お湯を捨てるときは、十分冷めてからおこなってください。

お手入れと保管

お手入れをするときは、電源プラグをコンセントから抜き、ケトル、ふた電源プレートが十分冷めたのを確認してからおこなう。

本製品は飲み物に使用する器具のため、使用後は必ずお手入れをしていつも清潔な状態で使用する。

⚠ 警告		
 <p>お手入れのときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き冷めてからおこなう ●感電・ショート・やけどの原因になります。</p>	 <p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない ●感電・ショート・けがの原因になります。</p>	 <p>ケトルや電源プレートを水に入れたり水をかけたり、丸洗いをしない ●故障・感電・ショート・火災の原因になります。 ※接続部は絶対にぬらさないでください。 ※ふたは丸洗いができます。</p>

⚠ 注意	
 <p>お手入れにはシンナー・ベンジン・みがき粉・たわし・化学ぞうきんなどは使用しない ●破損・故障・けがの原因になります。</p>	 <p>掃除用・整髪用・殺虫剤などのスプレーを吹きつけない ●破損・故障・けがの原因になります。</p>

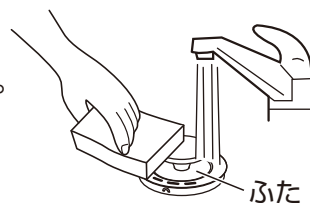
■ 電源プレート ※丸洗いは絶対しない

- かわいた柔らかいふきんで汚れをふき取ります。
- 落ちにくい汚れは、薄めた食器用中性洗剤に浸した柔らかいふきんをよくしぼってふき取り、さらに乾いた柔らかいふきんで洗剤が残らないようにきれいにふき取ります。



■ ふた ※丸洗いができます

- 食器用中性洗剤を柔らかいスポンジに含ませて水洗いします。
- 洗剤が残らないように水で洗い流し、乾いた柔らかいふきんで水分をふき取って乾燥させます。



お手入れと保管

■ ケトル ※丸洗いは絶対しない

ケトル外側のお手入れ

- かわいた柔らかいふきんで汚れをふき取ります。
- 落ちにくい汚れは、薄めた食器用中性洗剤に浸した柔らかいふきんをよくしぼってふき取り、さらに乾いた柔らかいふきんで洗剤が残らないようにきれいにふき取ります。



ケトル内側のお手入れ

- ケトルに少量の水を入れ、コップ洗い用のスポンジで汚れを落とし、水でよくすすいでから水を切り乾燥させます。
※ケトル内にある温度センサーに十分注意してお手入れしてください。
温度センサーに強い力を与えると、温度をうまく感知できないなど故障の原因になります。



ケトル内側の汚れが落ちにくいときは

- ケトル内側に白い汚れなどが付着する場合があります。これは、水道水に含まれているカルシウムなどのミネラル分が水アカとなって付着したものです。汚れが落ちにくいときは下記を参照してお手入れしてください。

ケトル内側の汚れが落ちにくいときは
①ケトルに水 (800mL) とクエン酸 (30g: 大さじ約2杯) を入れてよくかき混ぜます。
②ふたを取りつけて沸とうさせ、その後1時間放置します。
③お湯を捨てて、水でよくすすいでから水を切り乾燥させます。 (汚れが残っている場合は、コップ洗い用のスポンジで落としてから、水でよくすすいでください)
※においが気になる場合は、水のみを入れ再度沸とうさせてすすぎ洗いをしてください。

■ 保 管

- お手入れしたあとよく乾燥させ、包装ケースに納めるかポリ袋をかぶせ、直射日光や湿気を避けて保管します。
(湿ったまま保管するとカビの発生や異臭・故障の原因になります)

故障かな?と思ったら

下記の点検をおこなってください。

症状	原因	処置
待機モードにならない	●電源プラグがコンセントから抜けていませんか?	●電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
起動モードにならない	●電源スイッチが点滅していませんか?	●電源スイッチをタッチして起動モードにしてください。
スイッチをタッチしても反応しない	●各スイッチを正しくタッチしていますか?	●指の腹でしっかりタッチしてください。
	●ばんそうこうなどをしてタッチしていませんか?	●ばんそうこうをしていない指でタッチしてください。
	●操作部に汚れなど付着していませんか?	●操作部をお手入れしてください。
	●ケトルを電源プレートから取りはずしていませんか?	●ケトルが電源プレートにセットされていないときは、電源スイッチ以外反応しません。ケトルを電源プレートに確実にセットしてからタッチしてください。
加熱できない	●温度表示部に「Err」が表示されていませんか?	●「Err」が表示されたときは、空だき防止機能がはたらいています。 ⑮ページの「空だき防止機能について」を参照して、電源プラグをコンセントから抜いてください。
	●水温表示と設定温度の差が少なくないですか?	●水温表示と設定したい温度に5℃以上の差がないと設定できません。
沸とうしなかったり加熱に時間がかかる	●ふたがしっかりと取りつけられていますか?	●ふたをしっかりと取りつけてください。
水温表示が「□□℃」になる前に沸とうする	●気圧によるものではありませんか?	●気圧によって沸点が異なるので「□□℃」以下で沸とうすることがあります。
設定した温度よりも水温表示があがることがある	●水量が少ない状態ではありませんか?	●水量が少ない状態で加熱すると、加熱完了後にヒーターの余熱で設定した温度よりも水温表示があがる場合があります。 ⑧ページの「ケトルに水を入れる」を参照して半分以上水を入れることをおすすめします。
保温が停止する	●保温開始から1時間経過していませんか?	●保温は1時間のみです。保温について詳しくは、⑭ページを参照してください。


故障かな?と思ったら

下記の点検をおこなってください。

症状	原因	処置
保温できない	●保温スイッチが点灯していませんか?	●保温スイッチをタッチして、点滅させてください。
	●温度設定前に、保温スイッチをタッチしていませんか?	●保温は、温度設定後、または加熱中や加熱後に設定できます。 ※加熱後に保温を設定する場合は、オートオフ機能がはたらく前に設定してください。
加熱中に「カチッ」と音がする	●温度を調節しているときの音ではありませんか?	●本製品は、温度調節をしながら加熱します。温度を調節しているとき、断続的に「カチッ」と音がしますが、故障ではありません。
注ぎ口からお湯がこぼれる	●MAX目盛り以上水を入れていませんか?	●MAX目盛り以下に水を減らしてください。
	●水以外の飲料などが入っていませんか?	●水以外を入れて加熱しないでください。本製品は湯沸かし専用です。
ケトル内側に赤さび状や白っぽい汚れが付着する	●水アカではありませんか?	●水道水にはカルシウムなどのミネラル分が含まれています。加熱をすることで、ミネラル分が水アカとなって付着します。そのままにしておくと水アカが落ちにくくなりますので、ご使用後は常にお手入れをしてください。水アカが落ちにくいときは、⑯ページを参照してクエン酸洗浄をしてください。
温度表示部に「□□□□」と表示される	●電源プレートからケトルを取りはずしていませんか?	●電源プレートにケトルをセットするともとの表示に戻ります。

エラー表示について

温度表示部に下記のエラーが表示されたときは

表示内容	原因	処置
温度表示部に  が表示される (点灯)	●ケトルに水が入っていない状態で加熱していませんか?	●ケトルに水が入っていない状態で加熱すると、空だき防止機能がはたらいて「ピー、ピー、ピー」と3回音が鳴り、温度表示部に「Err」を表示します。 ⑮ページの「空だき防止機能について」を参照して、ケトルに水を入れてから加熱してください。 ※エラーが表示されたときは、電源プラグを抜かないと解除できません。

